



## 2022年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年8月10日

上場会社名 太陽化学株式会社  
 コード番号 2902 URL <https://www.taiyokagaku.com/>

上場取引所 名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山崎 長宏

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員企業統括部長 (氏名) 山崎 長俊

TEL 059-340-0802

四半期報告書提出予定日 2021年8月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第1四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第1四半期	10,738	9.9	1,578	15.4	1,660	16.4	1,174	14.5
2021年3月期第1四半期	9,773	3.8	1,367	10.9	1,426	15.6	1,025	18.0

(注) 包括利益 2022年3月期第1四半期 1,241百万円 (2.1%) 2021年3月期第1四半期 1,268百万円 (124.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第1四半期	66.54	
2021年3月期第1四半期	56.63	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第1四半期	52,876	42,541	78.0
2021年3月期	52,867	42,338	78.0

(参考) 自己資本 2022年3月期第1四半期 41,261百万円 2021年3月期 41,252百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		10.00		40.00	50.00
2022年3月期					
2022年3月期(予想)		10.00		52.00	62.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正については、本日(2021年8月10日)公表致しました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	20,500	4.8	2,800	6.3	2,900	4.3	2,100	7.3	119.50
通期	40,000	2.0	5,100	0.5	5,200	10.4	3,600	20.3	204.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想の修正については、本日(2021年8月10日)公表致しました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 1 社 (社名) 香奈維斯(天津)食品有限公 司 、 除外 社 (社名)

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期1Q	23,513,701 株	2021年3月期	23,513,701 株
2022年3月期1Q	5,940,621 株	2021年3月期	5,697,621 株
2022年3月期1Q	17,653,189 株	2021年3月期1Q	18,116,154 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により企業活動や消費行動が抑制され、予断を許さない状況が続きました。

当事業の主要分野であります食品業界におきましては、巣ごもり需要や内食化の拡大により、一般消費者向け商品の需要は堅調に推移しましたが、「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」の発令に伴う外食産業向け需要の減少により、企業を取り巻く事業環境は厳しい状況が続いております。

このような環境の中で当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）は、引き続き対処すべき課題として

- ①市場変化への対応
- ②販売の強化（グローバル化）
- ③品質管理体制の維持・強化
- ④環境への取り組み
- ⑤人材育成
- ⑥業務改善による全体最適化

を掲げ、企業価値の向上に取り組んでおります。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、107億38百万円（前年同四半期比9.9%増）となりました。

営業利益は、15億78百万円（前年同四半期比15.4%増）となりました。経常利益は、16億60百万円（前年同四半期比16.4%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、11億74百万円（前年同四半期比14.5%増）となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメントの状況は次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）II 当第1四半期連結累計期間（自2021年4月1日至2021年6月30日）

2. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載の通り、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。

#### ■ ニュートリション事業

医療、健康食品及び飲料業界等にカテキン（緑茶抽出物）、テアニン（機能性アミノ酸）、水溶性食物繊維等の機能性食品素材、ミネラル製剤、ビタミン製剤等を製造、販売しております。

水溶性食物繊維は、国内及び欧米市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

カテキンは、国内市場は減少しましたが、欧米・アジア市場で増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

ミネラル製剤は、国内市場は減少しましたが、アジア市場で増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

テアニンは、国内及び米国市場で増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

この結果、売上高は、27億57百万円（前年同四半期比26.3%増）、営業利益は、6億82百万円（前年同四半期比27.0%増）となりました。

#### ■ インターフェイスソリューション事業

乳製品、飲料、菓子、パン、加工油脂等の業界、及び化粧品、トイレタリー業界等に、乳化剤等の品質改良剤を製造、販売しております。

化粧品、トイレタリー用途、飲料用途及び一般食品用途のいずれも、国内市場、海外市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

この結果、売上高は、30億54百万円（前年同四半期比23.1%増）、営業利益は、7億18百万円（前年同四半期比52.2%増）となりました。

#### ■ ナチュラルイングリディエント事業

乳製品、飲料、菓子、パン、ハム・ソーセージ、即席めん、農産加工業界等に、鶏卵加工品、たん白素材、即席食品用素材、農産加工品等の食品素材、品質改良剤、安定剤等を製造、販売しております。

鶏卵加工品は、国内市場のめん用途、調味料用途等の粉末卵が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

即席食品用素材は、国内市場の即席めん用途で一部製品の製造を終了した結果、売上高は前年を下回りました。

フルーツ加工品は、AGRANA Fruit Japan 株式会社へ事業移管した結果、当期の期首より売上は発生しておりませ

ん。

安定剤は、国内市場のデザート用途、飲料用途が減少しました結果、売上高は前年を下回りました。

この結果、売上高は、49億7百万円（前年同四半期比3.7%減）、営業利益は、1億76百万円（前年同四半期比51.0%減）となりました。

■ その他

料理飲食等の事業を行なっております。

売上高は、19百万円（前年同四半期比53.4%増）、営業利益は、0百万円（前年同四半期は2百万円の営業損失を計上）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は、総資産が前連結会計年度末に比較して9百万円増加して、528億76百万円となりました。主な資産の変動は、受取手形及び売掛金の増加5億92百万円、流動資産その他の増加2億90百万円、建物及び構築物（純額）の増加5億66百万円、有形固定資産その他（純額）の増加11億62百万円、現金及び預金の減少17億27百万円、原材料及び貯蔵品の減少1億73百万円、投資その他の資産その他の減少6億62百万円です。

負債は、前連結会計年度末に比較して1億93百万円減少して103億35百万円となりました。主な負債の変動は、支払手形及び買掛金の増加9億6百万円、長期借入金の増加4億51百万円、未払法人税等の減少3億77百万円、流動負債その他の減少11億54百万円です。

純資産は、前連結会計年度末に比較して2億2百万円増加して425億41百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益11億74百万円の計上、非支配株主持分の増加1億93百万円、自己株式の取得による減少4億11百万円、配当金の支払による減少7億13百万円によるものです。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の78.0%から変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,475,645	6,748,037
受取手形及び売掛金	10,769,491	11,361,845
商品及び製品	3,547,908	3,577,958
仕掛品	564,767	586,617
原材料及び貯蔵品	1,979,980	1,806,028
その他	774,184	1,064,939
貸倒引当金	△15,445	△19,945
流動資産合計	26,096,532	25,125,481
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,305,847	6,872,712
土地	8,233,814	8,232,334
その他(純額)	5,125,461	6,288,254
有形固定資産合計	19,665,123	21,393,300
無形固定資産	254,229	243,837
投資その他の資産		
投資有価証券	5,027,152	4,951,619
その他	1,837,382	1,175,358
貸倒引当金	△12,950	△12,950
投資その他の資産合計	6,851,584	6,114,027
固定資産合計	26,770,938	27,751,165
資産合計	52,867,470	52,876,646

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,883,573	5,789,992
未払法人税等	821,238	443,464
賞与引当金	241,830	183,665
その他	3,295,469	2,140,800
流動負債合計	9,242,111	8,557,922
固定負債		
長期借入金	—	451,147
退職給付に係る負債	172,324	170,468
役員退職慰労引当金	478,302	465,318
その他	635,804	690,553
固定負債合計	1,286,430	1,777,486
負債合計	10,528,542	10,335,409
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,730,621	7,730,621
資本剰余金	7,340,648	7,340,648
利益剰余金	29,955,108	30,416,747
自己株式	△5,523,257	△5,934,413
株主資本合計	39,503,121	39,553,604
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,755,665	1,783,792
繰延ヘッジ損益	41,416	13,375
為替換算調整勘定	△32,745	△75,763
退職給付に係る調整累計額	△14,673	△13,010
その他の包括利益累計額合計	1,749,663	1,708,394
非支配株主持分	1,086,143	1,279,238
純資産合計	42,338,927	42,541,237
負債純資産合計	52,867,470	52,876,646

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
売上高	9,773,574	10,738,733
売上原価	6,929,128	7,435,068
売上総利益	2,844,445	3,303,665
販売費及び一般管理費	1,477,102	1,725,137
営業利益	1,367,343	1,578,527
営業外収益		
受取利息	8,535	7,436
受取配当金	24,391	26,180
持分法による投資利益	11,449	6,168
為替差益	—	31,036
その他	20,362	36,203
営業外収益合計	64,740	107,025
営業外費用		
支払利息	1,328	2,900
貸与資産減価償却費	1,503	14,443
為替差損	862	—
その他	2,190	8,012
営業外費用合計	5,885	25,356
経常利益	1,426,197	1,660,197
特別利益		
固定資産売却益	1,666	199
特別利益合計	1,666	199
特別損失		
固定資産除売却損	4,875	5,108
特別損失合計	4,875	5,108
税金等調整前四半期純利益	1,422,989	1,655,287
法人税等	358,388	447,546
四半期純利益	1,064,600	1,207,741
非支配株主に帰属する四半期純利益	38,609	33,086
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,025,990	1,174,655



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益	1,064,600	1,207,741
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	209,141	19,680
為替換算調整勘定	△25,760	32,057
退職給付に係る調整額	3,762	1,662
持分法適用会社に対する持分相当額	16,629	△19,594
その他の包括利益合計	203,773	33,806
四半期包括利益	1,268,374	1,241,547
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,235,585	1,133,386
非支配株主に係る四半期包括利益	32,788	108,161

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識することとしました。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

また、当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を掲載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。この変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

持分法適用関連会社であった香奈維斯(天津)食品有限公司の出資持分の一部追加取得により、当第1四半期連結会計期間より、持分法適用の関連会社から除外し、連結子会社としております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ニュー トリション 事業	インター フェイス ソリューション 事業	ナチュラル イングリ ディエント 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,183,760	2,480,315	5,096,928	9,761,003	12,570	9,773,574
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,183,760	2,480,315	5,096,928	9,761,003	12,570	9,773,574
セグメント利益 又は損失(△)	537,635	472,444	359,320	1,369,401	△2,057	1,367,343

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、料理飲食等の事業であります。  
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ニュー トリション 事業	インター フェイス ソリューション 事業	ナチュラル イングリ ディエント 事業	計		
売上高						
日本	1,365,818	2,372,725	4,333,380	8,071,924	16,323	8,088,248
アジア	198,031	501,870	574,182	1,274,084	2,957	1,277,041
アメリカ	841,797	21,477	—	863,274	—	863,274
欧州	352,016	158,152	—	510,168	—	510,168
顧客との契約から生じる収益	2,757,663	3,054,225	4,907,562	10,719,451	19,281	10,738,733
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	2,757,663	3,054,225	4,907,562	10,719,451	19,281	10,738,733
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,757,663	3,054,225	4,907,562	10,719,451	19,281	10,738,733
セグメント利益	682,568	718,924	176,086	1,577,579	948	1,578,527

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、料理飲食等の事業であります。  
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメントの組替について)

当第1四半期連結会計期間から「アグリフード事業」はフルーツ事業の移管等により、より事業内容に適した「ナチュラルイングリディエント事業」へ名称を変更しております。又、事業部製品の再編により、「ニュートリション事業」に含まれていた一部製品を「ナチュラルイングリディエント事業」に含め、「ナチュラルイングリディエント事業」に含まれていた一部製品を「ニュートリション事業」に含めて記載しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの

区分に基づき作成したものを開示しております。